

大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin



- クラブ創立：2000年1月13日
- 例会日：毎週水曜日（12：30～13：30）
- 例会場：中部コミュニティセンター TEL0475-73-3337 FAX73-4360
- 事務所：〒299-3251 大網白里町大網450-6 ユアサビル2階 TEL0475-70-0200
- 会長：矢部 慎一 幹事：星野 実
- 広報公共イメージ向上委員会 委員長 石田 英世

2019年10月30日(水)

通巻第922号

http://www.oamirotary.com
E-mail rc@oamirotary.com



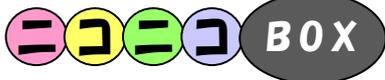
点 鐘 会長 矢部 慎一
ソング

会長挨拶 会長 矢部 慎一
幹事報告 幹事 星野 実

<プログラム>

夜間移動例会

千葉市 寿々女寿司（すずめずし）



板倉達夫会員

誕生祝い有難うございます。

今日は免許の更新も出来まして大変ニコニコです。

大越将司会員

産業文化祭で子ども食堂のPRをさせて頂きました。チラシを配布して下さいました。星野幹事はじめ、皆様ありがとうございます。来月23日の子ども食堂はカレーを予定しております。宜しくお願い致します。

例会日	10月23日	10月8日
会員数	29	29
出席	16	17
欠席	13	12
MU	0	1
免除	1	1
出席率	58.62	65.52

会長挨拶

矢部 慎一 会長



「水が上がってきたよ、お父さん！」台風19号の影響で前日から強い雨が降り続いていた13日の未明。JRいわき駅から約2*離れた福島県いわき市平下窪に住む関根百合子さん（86）は目が覚め、敷布団がぬれているのに気がついた。約30*離れた夏井川の水があふれ、家まで浸水していた。あわてて夫の治さん（86）に声をかけた。

約30年住む自宅は平屋。通帳などの貴重品を高いところに移すうち、水がさらに増えていく。

治さんが消防に通報すると「屋根に上がって」と言われたが、治さんは足が悪い。日頃から百合子さんの肩に手をかけないと歩けなかった治さんは、家の窓を開けて「助けて」と叫び続けた。百合子さんはベッドの上に立ち、治さんの手をつかんで引っ張り上げようとした。しかし、治さんは思うように体を動かさないうちだった。

「長いこと世話になったな。水中に倒れ込みながら、治さんはそう言った。

「しっかりして」。百合子さんは立きながら力を入れたがやがて水は百合子さんの胸のあたりまで上がった。

夜が明けると、横たわる治さんの体があった。百合子さんは救助され、ボートに乗せられた。

検察事務官だった治さんは車通勤のため、福島県内各地で働いた。山歩きが好きで、夏はアユ釣り、秋は山菜採りを楽しんだ。「人当たりが良くて温厚な人だった」と百合子さん。運動をしていたのになぜ足を痛めたのか、と不思議がることもあったという。最近、治さんは車の運転も以前のようににはできなくなっていた。

「私ひとりになっちゃったからね」。

百合子さんは肩を落とす。いまは、首都圏から駆けつけた娘らと、夫との思い出が詰まった自宅の片付けに追われる。

寄付金お礼挨拶

シュレスタ・ラジブ 様

大網 RC 例会参加 寄付金の用途報告



大網ロータリークラブの皆様こんにちは。私はネパール出身で、米山学友のシュレスタ・ラジブと申します。本日は例会に参加する機会をいただき誠にありがとうございます。

私は2004年に米山奨学生として選ばれ、千葉幕張ロータリークラブが私の世話クラブで宇佐見さんカウンセラーでした。その際、ロータリアンの奉仕の精神について例会などで皆さんの背後を見ながら学ぶことができました。そして、四之宮お父さんとは2008年に卓話関連でお会いし、それから大網ロータリークラブとも親しくなり、お世話になっております。四之宮お父さんの出会いで心の中に深く刻まれたことがあります。「ロータリアンは奨学生に恩返しは求めないが、恩送りすることを望む」と言うことです。

私事ですが、昨年次男が生まれ、家内と3人の子どもと一緒に東京で暮らしております。現在は伊藤園がバックボーンになっている公益財団法人本庄国際奨学財団で勤めております。ロータリー米山記念奨学会と同じような活動で、日本人及び外国人留学生に奨学金を与えている財団です。奨学生や卒業生向けのイベントなどを計画運営するが主な仕事です。

私は来日して20年になりましたが、その間日本で大変激しい生活を送って参りました。特に長男が生まれた2009年頃からどん底に落ちました。2年間は仕事がなく大変な目に遭いました。その時私の世話クラブ、四之宮お父さんをはじめ大網ロータリークラブから精神的支えてくださったこと、一生忘れることが出来ません。そのおかげで今があると考え、心より感謝しております。

10月誕生祝



誕生祝 板倉 達夫 会員 (右)
S10 (1935) 10.20

米山 寄付



第6回米山功労者 (マルチプル)
板倉 達夫 会員

産業文化祭バザーについて



10月20日(日)開催バザーでは、皆様のご協力により以下の収益となりました。
心より感謝申し上げます。

収益金は、多方面への支援や寄付金に充てさせていただきます。

売上 180,961円

現在私は日本の永住許可をもらっています。なかなかもらえないものですが、やはり四之宮お父さんが私の保証人になっていただきましたので無事に通常言われた時間内に許可してくれました。ロータリアンの凄さを本件からも痛感することができました。現在は入館関係のストレスがないので幾分楽になっています。改めて保証していただきました四之宮お父さんに御礼を申し上げます。

ここから私の恩送りの試みについてお話しします。

子どもにミルクを買うお金がないくらい困窮が極まった私はお金の面で何かを活動することは無理でした。しかし、恩送りをしなければという自分からのプレッシャーは常に感じていました。ある日、校友会で活躍することもロータリアンをハッピーにする一つの手だと聞きました。しかし、2790地区の校友会は私が卒業した2005年から徐々に衰退して、冬眠状態になっていて、お手伝いしようがありませんでした。2010年のある日、千葉大学事務所から米山校友会の再出発に向けての会合があると呼びかけられたのです。喜んで参加して、役員となって関わることになりました。ただし、会長の人は忙しい方で、委員会のプレッシャーに絶えず音信不通になってしまいました。それまでに他の役員もいなくなり、再び存亡の危機に瀕してしまいました。私もどん底の生活をしていましたが、校友会に活躍して恩送りしたいという思いは強く私が手を引くことが出来ませんでした。ちょうど宇佐見さんがガバナーになる年度でもあったので、この機会だったら何かできるだろうと期待して会長を引き受けました。しかし、そう簡単ではありませんでした。全ての作業は一人で行っていました。米山委員会の協力を得て、現役奨学生も巻き込んで、徐々に組織化を計ってきました。今年度になって後輩に会長の職を任せ、顧問として関わらせていただいております。今は会長になりたいという子が数人いるほど軌道に乗りつつあります。今後もできることをお手伝いしながら関わっていきたいと思います。もう一方で、私が米山奨学生を卒業してからネパールでNGOを作って寺子屋活動をして恩送りを試みてきました。現在当初活動した地域は政府によって非識字者のいない地域と指定され、寺子屋活動は難しくなっています。その代わりに、私の米山奨学生としての経験から些細な奨学金制度を考案して供与する活動に変換しました。ネパールでは小学(学校教育1年から5年)は無料ですが、6年以降は有料になるので6年から10年まで該当の奨学生を支える奨学金制度です。現在26人の生徒たちに奨学金を供与しております。毎年15万円の寄付金をいただいておりますが、全額が奨学金のために使われています。本日いただいた寄付金もすべて奨学金です。これは私の小さな恩送りの試みの大きな財源になっております。このように毎年いただいております寄付金はきちんと有効に活躍しておりますことを報告いたします。

いつもご寄付金をいただき、四之宮お父さん、板倉様はじめ大網ロータリークラブの皆様へ心から感謝しております。私の恩送りの活動に息子、娘たちも関わってもらいたいと考えておりますので今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

以上をもちまして私の話を終わりにします。ご清聴ありがとうございました。

卓 話

楊 浩楠 (ヨウ コウナン) 様



武道とは 武道の理念は時代あるいは組織や個人により様々であり、正反対の考え方も存在しているが、主要武道9連盟が加盟する日本武道協議会は「武道は、武士道の伝統に由来する日本国で体系化された武技の修練による心技一如の運動文化で、柔道、空手道、剣道、相撲、弓道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道などを修練して心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、国家、社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道である。」と制定していることです。

合気道とは 合気道は相手といたずらに強弱を競いません。入身と転換の大捌きと呼吸力から生まれる技によって、お互いに切磋琢磨し合って稽古を積み重ね、心身の練成を図るのを目的としています。また、合気道は他人と優劣を競うことをしないため、試合や競技を行いません。開祖・植芝盛平翁逝去の後、故植芝吉祥丸(うえしば きつしょうまる)(1921~1999)が道主を継承して一般にも門戸を開放し世界に広げ、現在、植芝守央(うえしば もりてる)が道主を継承しております。

居合道とは 居合道の源流である抜刀術(居合術)は、戦国時代から江戸時代初期にかけての剣客林崎甚助(はやしざき じんすけ)によって創始されたといわれる。江戸時代には数多くの流派が生まれた。

明治維新後、新政府の政策により居合術は弱かったが、1895年(明治28年)に大日本武徳会が結成され、他の武術と共に居合術も振興が始めた。大日本武徳会は、優秀な居合術の演武をした者に精錬証(のち錬士)及び教士、範士の称号を授与した。ただし段位は設(もう)けなかった。また、当時は居合道より居合術という呼び方が一般であり、大日本武徳会では居合術と呼称していた。

全日本居合道連盟から大日本居合道連盟、日本居合道連盟、全国居合道連盟が派生し、居合道の連盟は複数に分裂した。現在、各連盟にほとんど交流はなく、演武大会や段級位審査はそれぞれの連盟が独自に行っている。

将来の夢 中国に帰って、日本の武士道文化と武道の技術を普及したいと思います。そして、将来米山ロータリーの奨学生として、日本と中国の架け橋になって、日中友好の為に力貢献したいと考えている。

奨学生として この奨学金をもらえるのは本当に嬉しいことでございます。一人で、日本で生活するのは難しいです。進学と就職の圧力があります。米山記念奨学会からいろいろな面で助けていただきました誠にありがとうございます。奨学金が受けられるのは私の生活ばかりではなく、私の学業にも寄与できたものと確信いたしました。私は必ず以前より一生懸命に勉強し、将来、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会の奨学生として、日本と中国の架け橋になって、日中友好の為に自分の力を貢献したいと思います。

最後に、今回卓話をさせていただき、誠にありがとうございました。ご清聴ありがとうございました。

